
勇者兼商人兼職人兼妖精魔導士です。。

本気ノ馬鹿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者兼商人兼職人兼妖精魔導士です。。

【NZコード】

N0417Z

【作者名】

本気ノ馬鹿

【あらすじ】

高校生で一般人な主人公が事故で死に転生！

勇者だつたり商人だつたり成りたいものに片つ端からなれたらなあと思います、癒やし系やツンデレ系を取り揃えようと思います。テンプレかもハーレムかも転生かもです。

2500～3000字にしようと思います。

プロローグ…おまは死ぬるばかり（漫書）

書を置かなしで最初は一寸詰からず詰上ばかりといふ時こまか。
やれじやよひこへむ願いします。

プロローグ・まずは死ぬといひから

生前の俺

ネットゲームが大好きで学校も休みがちだった、だからと言つて引き籠りじゃない。

いまどき珍しくもない普通の高校生が「ゴールデンウィーク期間に入り、休み中はバリバリにネットゲームしまくるぜ！」ってテンション上げて夜中に夜食を買いにコンビニに行つたら、車に轢かれてしまった。

バッドエンドの「デッドエンドで人生中途半端にして終了」、夢なかばに終了。

親孝行も出来ずに、好きな子に告白もできずに、将来お金持ちになる夢も成し遂げられずに、あっけなく死んでしまい、人生を終了してしまった。

「俺の人生あっけねえ、やり残したこといっぱいあったのになあ」

ちなみに既さんは転生つて、言葉を聞いたことあるでしょうか。

今、俺の前には光り輝く、偉そうで眩しいオジサンがいて、校長室みたいなところにいる、PCがあつてソファーがあつて本棚もある。（これは転生フラグかなあ、やっぱ俺も神様の間違いとかで死んじやつたパターンなのかな？）

「別に間違えてなどおらんよ、御主は確かにあそこで死ぬ運命じやつた寿命道理にしんであるよ」

優しくて綺麗な声だつた、別に敬語だつたり腰が低かつたりせず普通に優しそうなお爺さん

「やっぱ神様だと人の心が読めたりするんだ」

「まあ神様じやからな、あと心配せんでもちゃんと転生はさせてや

る

「神様の間違いじゃないのに転生できちゃうの？」

「まあ神様は万能じやし死んだ人間には好きにさせたあげないと可哀想だから、ちなみに一度死んだら同じ世界での転生は無理じや、似たような世界などはあるが全く同じ世界は無いので現実問題、同じ世界には転生できん。」

(誰でも転生出来んのかよ)

「ほつほつほ、転生出来る人間は生前に善幸を重ねたものや、何も成し遂げぬまま死んだり、やり残したことがある人間じや、未練もなく、将来も無いものは、そのまま無に帰るのじやよ」

「あれ？ 未練なくて死んだ人間は記憶消してまた生まれ変わるんじやないの？」

「記憶を消して生き返らせても意味などないのじや、普通に新しい人間しか生まれることはできん」

(なるほどお、むずかしいなあ)

「分かつたような分からないような感じだな」

「まあ適当な説明だしの、そんな事は人間には教えんし理解も出んだろ」

「今の説明適当だったのかよ」

「ほつほ、愉快な人間じやまだ話していたいがそろそろ転生の説明をさせてもらいたい」

「どうぞー」

「お主が転生できる世界は簡単に4つほどある全て剣と魔法の世界じゃ

一つ目は、剣寄りの世界で種族が多く妖精などもいるが文明が他の世界に比べて一番遅れておる。

二つ目は、魔法寄りの世界で種族が少ないが文明が他に比べると一番進んでおる。

三つ目は、前者二つの中間じや。

四つ目は、レギウスと言つ世界で一番のおすすめじや剣も魔法も盛

りだくさんじや、他の世界で見られる種族は全て揃えているもちろん妖精もじや、文明は船も馬車もあるし場所によって進んでたり遅れてたりしておる、最も進んでいる場所だとショボくて暗いが電気のライトぐらにはある。

何よりこの世界は広い、とにかく広くほかの世界に比べると2倍近くある、冒険するにはもってこいじや

ちなみに剣は武術なども含まれる物理攻撃全般で魔法はそのまんまじや

「四つ目の世界推しそぎだり、それ以外の世界の説明に比べるとなくてほかの世界の説明は忘れちゃったよ。」

「ほっほ、四つ目以外はあまり楽しくないから」

「んじや四つ目で、何か能力とかくれるの？チートとか従者とか」

「これはいくつか準備してある、99ポイントを能力などに降つて行けば良い

このPCを使つくれ

「おおー分かり易いじやん、んじやちょっと失礼」

まず目に付くのは「基本系」身体能力の向上（3）、学習能力の向上（5）

魔力増加（1～5）、魔力回復速度（2～8）、魔力属性選択（2）
種族選択（2）、etc

「魔術・魔法系」全魔術・魔法・魔導の指南書（5）、魔力属性追加（5）

「アイテム・装備系」祝福の水筒（4）、聖剣1vMAX（7）、
魔劍1vMAX（6）

神のロープ（3）、神の軽装備（3）、神の重装備（3）・etc
「特殊能力」武器防具作成（10）、不死（5）、起死回生（15）

自分用の空間（3）、武器熟練値MAX（10）、鑑定（7）、千里眼（7）

植物の主（10）、生物の主（10）、幸運（3）、etc

「従者」家庭的メイド（10）、万能メイド（23）、妖精（20）

創成と闇の妖精（35）、終わりと光の妖精（35）、etc

「まずわかりにくいものの説明をすると、種族選択とはこの世界に存在する種族や新しく作る種族を選べる、魔力属性とは（火、水、土、風、雷、闇、光、影、etc）の中から好きなのを選べる、魔力属性追加は二つの属性を使えるようになる火は攻撃系闇は火水土風雷全てに有利になるだが光に弱くなるそして、光は防御力が高いが攻撃力が低い、影は最も1vが上げにくく戦闘力が低い影の中にアイテムなどを入れたり便利系能力じや

1vを上げやすい順番は風＝水土＝火雷闇光影の順じや

それから祝福の水筒は、水が無限に湧いてしかも体力回復や異常状態回復などができる、自分用の空間とは簡単に言えば無限にものが入る力バンだつたり、別荘用の空間じや人もモンスターもいない場所じやな。

生命の主は動物や魔物魔獣を支配できるようになる植物の主は植物を無尽蔵に生やしたりできるようになる」

「35ポイントの妖精は何？それから俺が行く世界は1v制なの？」

「基本的にはスキル制だと考えてくれ、ただ魔力属性は生まれつきで変えることも貰うこともできないしHPやMPを数値化したりもしてくれない」

「じゃあ覚えられるスキルには限度がある？」

「属性を除いた装備スキルを10個まで職業スキルを2個までストックを11個じやスキルは戦闘中じやなければ破棄できる」

「まんまネトゲじやん・・・そこらへんの操作は頭の中でやるの？」

「あちらの世界で専用のアイテムがもらえる、それからスキル＝動作補助と考えてもらつたほうがいいの」

「ん~了解」

「それから35ポイントの妖精は一人揃えれば最終的にすべてのことができると考えてくれポイントを無限にもちすべての能力をMAXまで降つたかんじじや」

「なんで俺よりか従者のが万能なんだよ」

「ほつほ、この従者は知識も力もある、だが他の従者は絶対忠誠なのにこの者たちは違うお前とともに生まれお前が育てなければならぬ失敗すれば世界を滅ぼしたりお前の敵になるかもしけん」

「なるほど、万能だが絶対忠誠じやないと」

「そゆことじやな、それと魔法は教えてくれるし、魔力の供給などもしてくれる最初の方は三人のないと何もできなくなってしまうがな」

「よし決めた、その妖精一人と、それから身体能力3 ptと学習能力5 pt、それから魔力増加5 ptと回復速度8 ptと幸運5 ptと属性追加3 pt」

「種族選択や魔力属性選択はいいのか?」

「ランダムのが面白いしね」

「ほつほ、そうかならこれで晴れて転生できるの、お主の両親や友人には幸せな将来が待つてあるお主も新たな世界で幸せに生きて行け」

プロローグ…まずは死ぬといわから（後書き）

駄文ですが今後とも改善していきたいと思います。
コメントなどもうึぶると喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0417z/>

勇者兼商人兼職人兼妖精魔導士です。。

2011年12月1日18時52分発行